

株式会社 岩井化成 環境活動レポート 2017

ENVIRONMENTAL ACTIVITIES REPORT 2017

2017.3.1—2018.2.28

IWAIKASEI Co., Ltd.

2018 年 6 月 10 日発行

www.iwaikasei.co.jp

ENVIRONMENTAL ACTIVITIES REPORT 2017

目次

目次	P01
環境方針	P02
会社概要・対象範囲・事業内容	P03
環境目標と実績	P04
環境活動計画の内容 1	P05
環境活動計画の内容 2	P06
環境活動計画の取組結果と評価	P07
環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P08
代表者による全体の評価と見直し	P09
産業廃棄物に係る情報の公開 1	P10
産業廃棄物に係る情報の公開 2	P11

岩井化成の環境方針

基本理念

私たち、株式会社 岩井化成は、
事業に伴う環境負荷を継続的に低減するとともに、
地球環境・地域社会への環境影響に配慮します。
また、産業廃棄物処理業として、
産業廃棄物の適正処理を推進するとともに、
求められるリサイクルニーズに対して、
リサイクル手法の確立や提案によって、
産業廃棄物の更なるリサイクル・減容化に努める等、
循環型社会の実現に向け全力を尽くします。

基本方針

1. 廃棄物収集運搬業・廃棄物処理業などの業務活動に係る、
環境管理を行うとともに、環境経営システムを構築し、
継続的改善によって環境負荷を低減することにより、
汚染の予防に積極的に取り組みます。
2. 事業に伴う環境負荷を低減するために、
安全で環境に優しい収集運搬と、徹底した分別・適正処理を行い、
業務の効率化による省資源・省エネルギーの推進やグリーン購入を、
環境目標に取り入れ推進し、定期的に見直しを行い、
環境経営システムの継続的改善に努めます。
3. 環境関連法令・条例・業界等の指針、
自主基準及び地域の要求事項を遵守し環境汚染予防に努めます。
4. 循環型社会に対応するためのリサイクルシステムを構築、
排出事業者・施設見学者への環境教育、
環境改善奉仕活動などを実施し、地域社会に貢献します。
5. 環境教育、広報活動などにより、全従業員・関連協力会社に、
環境方針の周知徹底を図り、環境保全活動に努めます。
6. 事業活動において、化学物質の適正管理に努めます。
7. 環境方針は、一般に公開します。

代表取締役 清水 弘

2012年3月6日

ENVIRONMENTAL ACTIVITIES REPORT 2017

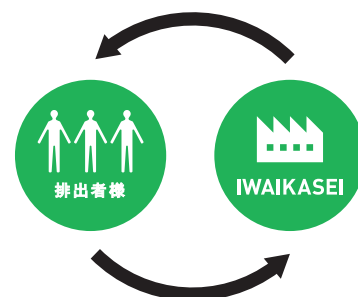
会社概要・対象範囲・環境目標

会社概要

会社名	株式会社 岩井化成	資本金	1,000 万円
代表者	清水 弘	事業内容	合成樹脂再生加工品の製造及び販売 インフレーションフィルムの製造及び販売 廃プラスチック類の中間処分・収集・運搬
環境管理責任者	鈴木 泰代	事業所の総床面積	4,972m ²
所在地	茨城県坂東市馬立南の台 1263-2	従業員数	40 人
電話番号	0297-35-1879	対象事業所	岩井工場(全組織・全活動)
FAX 番号	0297-36-3323		

循環型リサイクルについて

使用済みのポリエチレンも、大切な資源です。岩井化成は、お客様から回収した使用済みポリエチレンを資源として製品化し、再びお客様に使っていただく循環型リサイクルをすすめています。循環型リサイクルは、排出者と回収者、再生者が一体となって取り組む環境活動です。地球環境を守るためにも、私たちが出した排出物は、私たちの国で資源として再利用しましょう。岩井化成は皆さんと一緒に、この活動をすすめていきたいと考えています。



リサイクル製品について

生クリーム袋	分別用ゴミ袋	容器包装	再生ゴミ袋
ビールサーバーチューブ	梱包袋	PP バンド	再生 PP バンド
レジ袋	再生レジ袋	引越用気泡緩衝材	エコぶち・ゴミ袋
新聞包装材	再生新聞包装材	ビニルハウス	再生ゴミ袋
牛乳ピンのフタ	再生ゴミ袋	トナー	手さげ袋

ENVIRONMENTAL
ACTIVITIES
REPORT
2017

環境目標と実績

1 循環型社会構築への貢献

目標項目	2016年度 基準値	単位	2017年度 短期目標	目標値	単位	2020年度 中長期目標	目標値	単位	2017年度 実績値	達成率
1. 総生産量の増加	7,111	t	1% 増加	7,182	t	3% 増加	7,324	t	7,739	108%
2. ポリエチレン再生品の商品化	30	件	商品化 +3 件	30	件	商品化 +8 件	30	件	30	100%

2 二酸化炭素排出量の削減

目標項目	2016年度 基準値	単位	2017年度 短期目標	目標値	単位	2020年度 中長期目標	目標値	単位	2017年度 実績値	達成率
1. 購入電力の削減 ※1	565	kWh/t	1% 削減	559	kWh/t	2% 削減	554	kWh/t	560	0%
2. オンデマンド監視システムの運用	—	—	適正稼働	—	—	適正稼働	—	—	適正稼働	100%
3. 生産量 1t あたりの CO ₂ 排出量を抑制	173	kg-CO ₂ /t	1% 削減	171	kg-CO ₂ /t	2% 削減	170	kg-CO ₂ /t	170	-1%

※1: 電力の二酸化炭素排出量は、排出係数 0.296kg-CO₂/kWh を採用

※総生産量 1t あたりで算出

3 回収量での廃棄物排出量

目標項目	2016年度 基準値	単位	2017年度 短期目標	目標値	単位	2020年度 中長期目標	目標値	単位	2017年度 実績値	達成率
1. 一般廃棄物排出量の削減	0.829	kg/t	1% 削減	0.821	kg/t	2% 削減	0.812	kg/t	0.668	-19%
2. 産業廃棄物排出量の削減	6.406	kg/t	1% 削減	6.342	kg/t	2% 削減	6.278	kg/t	8.168	29%

※有価回収原材料 1t あたりで算出

4 総排水量（水資源投入量）

目標項目	2016年度 基準値	単位	2017年度 短期目標	目標値	単位	2020年度 中長期目標	目標値	単位	2017年度 実績値	達成率
1. 上水量の削減	0.527	m ³ /t	基準年度以下	0.527	m ³ /t	基準年度以下	0.527	m ³ /t	0.723	37%

※総生産量 1t あたりで算出

5 化学物質の使用

目標項目	目標	2017年度 実績値	達成率
1. 化学物質使用量	在庫量の適正管理	適正管理	100%

6 グリーン購入を推進

目標項目	目標	2017年度 実績値	達成率
1. グリーン購入の推進	毎月 1 回状況の確認	毎月 1 回	100%

ENVIRONMENTAL ACTIVITIES REPORT 2017

環境活動計画の内容 1

1 循環型社会構築への貢献(リサイクル商品の増産)

1. ポリエチレン原料の再生化の増加
 - 製造ラインの切り替えを減らし、ロス率を軽減する
2. リサイクル商品の企画、商品化
 - 取引先(回収先)へ再生商品の使用を提案する

2 二酸化炭素排出量

1. 総生産量 1t あたりの購入電力(kWh/t)の削減
 - 工場内の消耗機器を省エネ機器へ切り替える
2. デマンド管理システムの運用
 - 適正に調整、運用する
3. 総生産量 1t あたりの二酸化炭素排出量(kg-CO₂/t)の抑制
 - 電気については 2-1 と同じ
 - 化石燃料については納入車におけるアイドリングストップを推進
 - 社用車 ECO 運転の実施

3 廃棄物排出量

1. 有価回収原材料 1t あたりの一般廃棄物の削減(kg/t)
 - 回収先への分別指導の徹底
2. 有価回収原材料 1t あたりの産業廃棄物の削減(kg/t)
 - 回収先への分別指導の徹底

4 水資源投入量

1. 生産量 1t あたりの上水量の削減(m³/t)
 - 再生加工時に使用する冷却用の水を循環し再利用
 - 節水こまの設置

5 化学物質使用量

1. 化学物質使用量
 - 在庫量の適正管理

6 グリーン購入の実施

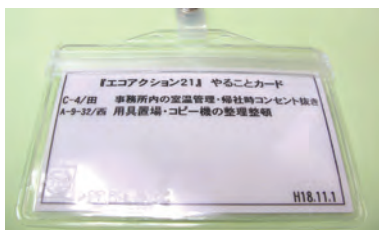
1. グリーン購入の実施
 - 消耗品の購入はできるだけ再生品を購入する

環境活動計画の内容 2

その他



▲レジ袋の回収



▲エコアクション 21 やることカード

清風の森（除草作業）



工場屋根に太陽光発電パネルを設置



168 枚のパネル設置

容 量 39.14kW(約 40kW)

年間発電量 41,528kWh/ 年

ENVIRONMENTAL
ACTIVITIES
REPORT
2017

環境活動計画の取組結果とその評価

評価基準

5. 目標を完璧に達成 / 4. 目標を十分に達成 / 3. 目標を達成
2. まだ改善の余地がある / 1. 目標を達成していないので、是正処置が必要である

1 循環型社会構築への貢献を目指し、ポリエチレンのリサイクル増加に取り組む

環境目標	目標値	目標削減率	実績値	実績達成率	環境活動計画	評価
1. 総生産量の増加	7,182 t	1% 増加	7,739 t	108%	製造ラインの切り替えを減らし、ロス率を軽減する	4
2. ポリエチレン再生品の商品化	—	30 件	—	30 件	取引先(回収先)へ再生商品の使用の提案	3

2 環境への負荷を認識し、二酸化炭素排出量の抑制に取り組む

環境目標	目標値	目標削減率	実績値	実績削減率	環境活動計画	評価
1. 購入電力の削減 ※1	559 kWh/t	1% 削減	560 kWh/t	0%	工場内の消耗機器を省エネ機器へ切り替える	3
2. オンデマンド監視システムの運用	—	適正稼働	—	適正稼働	適正に調整、運用する	4
3. 生産量 1t あたりの CO ₂ 排出量を抑制	171 kg-CO ₂ /t	1% 削減	170 kg-CO ₂ /t	-1% 削減	・納入車におけるアイドリングストップを推進 ・社用車 ECO 運転の実施	4

※1: 電力の二酸化炭素排出量は、排出係数 0.296kg-CO₂/kWh を採用

※総生産量 1t あたりで算出

3 環境への負荷を認識し、廃棄物排出量の削減に取り組む

環境目標	目標値	目標削減率	実績値	実績達成率	環境活動計画	評価
1. 一般廃棄物排出量の削減	0.821 kg/t	1% 削減	0.668 kg/t	-19%	回収先への分別指導の徹底	5
2. 産業廃棄物排出量の削減	6.342 kg/t	1% 削減	8.168 kg/t	29%	回収先への分別指導の徹底	2

※有価回収原材料 1t あたりで算出

4 環境への負荷を認識し、総排水量(水資源投入量)の削減に取り組む

環境目標	目標値	目標削減率	実績値	実績達成率	環境活動計画	評価
1. 上水量の削減	0.527 m ³ /t	基準年度以下	0.723 m ³ /t	37%	・再生加工時に使用する冷却用の水を循環し再利用 ・節水こまの設置	3

※総生産量 1t あたりで算出

5 事業活動において化学物質使用量を抑えることに努める

環境目標	目標削減率	実績削減率	環境活動計画	評価
1. 化学物質使用量	PPRT 法による管理	PPRT 法による管理	在庫量の適正管理	3

6 グリーン購入を推進

環境目標	目標削減率	実績削減率	環境活動計画	評価
1. グリーン購入の推進	都度	都度	消耗品の購入はできるだけ再生品を購入する	3

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関わる主な関連法規は以下の通りです。

廃棄物処理法

道路運送車両法

消防法

浄化槽法



環境関連法規への違反はありません。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。
また、訴訟も過去3年間ありません。

2017 NEW 環境展に出展いたしました。

2017年5月22日(火)～25日(金)
東京ビッグサイト 東展示棟



ENVIRONMENTAL ACTIVITIES REPORT 2017

代表者による全体の評価と見直し

エコアクション 21 全体の取組状況の評価

取組			評価	評価内容
環境経営システム が有効に機能 しているか あるいはしたか	P D C A サイ クル	A⇒P 代表者による全体の評価と見直しは 計画に反映しているかなど	4	各部門がそれぞれ取り組んでいる。
		P⇒D 計画は効果的に実施されたかなど	4	環境意識を持って実施されている。
		D⇒C 実施状況、結果は適切に確認・評価されたかなど	4	今後の取り組みを見守りたい。
		C⇒A 確認・評価された情報は、代表者による 全体の評価と見直しに反映されているかなど	4	長期的な課題が今後の検討対象 となると考えられる。
		継続的改善（上記の総評）	4	概ね評価できる。
環境への取組 は適切に実施 されているか あるいはされたか	環境方針		4	環境意識を持って各社員が環境 方針に取り組んでいる。
	環境目標	短年度	4	特に変更の必要はない。
		中長期	4	特に変更の必要はない。
	環境活動計画		4	特に変更の必要はない。
	是正処置の実施		4	結果の評価値の見直し。
	予防処置の実施		4	特に問題点はないと思われる。
	環境関連法規等の遵守		4	関連法規の違反や関係当局からの 違反の指摘は見当たらない。

一般的な見直しと必要な指示

取組			変更の 必要性	評価内容
環境経営システム が有効に機能 しているか あるいはしたか	P D C A サイ クル	A⇒P 代表者による全体の評価と見直しは 計画に反映しているかなど	不要	現状にて継続する。
		P⇒D 計画は効果的に実施されたかなど	不要	現状にて継続する。
		D⇒C 実施状況、結果は適切に確認・評価されたかなど	不要	現状にて継続する。
		C⇒A 確認・評価された情報は、代表者による 全体の評価と見直しに反映されているかなど	不要	現状にて継続する。
		継続的改善（上記の総評）	不要	現状にて継続する。
環境への取組 は適切に実施 されているか あるいはされたか	環境方針		不要	特に変更の必要はない。
	環境目標	短年度	不要	特に変更の必要はない。
		中長期	不要	特に変更の必要はない。
	環境活動計画		不要	特に変更の必要はない。
	是正処置の実施		必要	是正内容を確認し、実施する。
	予防処置の実施		不要	今後の結果を見て検討する。
	環境関連法規等の遵守		不要	関連法規の違反や関係当局からの 違反の指摘は見当たらない。

代表者による全体の評価と見直し（総括）

総生産量は製造ラインの切り替えを効率的に行うことができおり、目標を達成している。
二酸化炭素の排出に最も関係している電力量の削減が目標を上回る達成率となっており、
取り組みが生かされている。排出割合が大きいと、今後も全社的にこなっていく必要がある。
総排水量の削減が未達成だったが、水循環システムが改善された為、今後は目標達成が見込まれる。
廃棄物の量が増加しており、引き続き回収先への指導を行うことが必要である。
全体的に多くの項目で目標を達成しており、更なる環境負荷の軽減に取り組んでいくことが望まれる。

ENVIRONMENTAL ACTIVITIES REPORT 2017

産業廃棄物に係る情報公開 2

受託した産業廃棄物の処理実績(2017.3~2018.2)

収集運搬業 収集運搬業の業としての実績はありません。

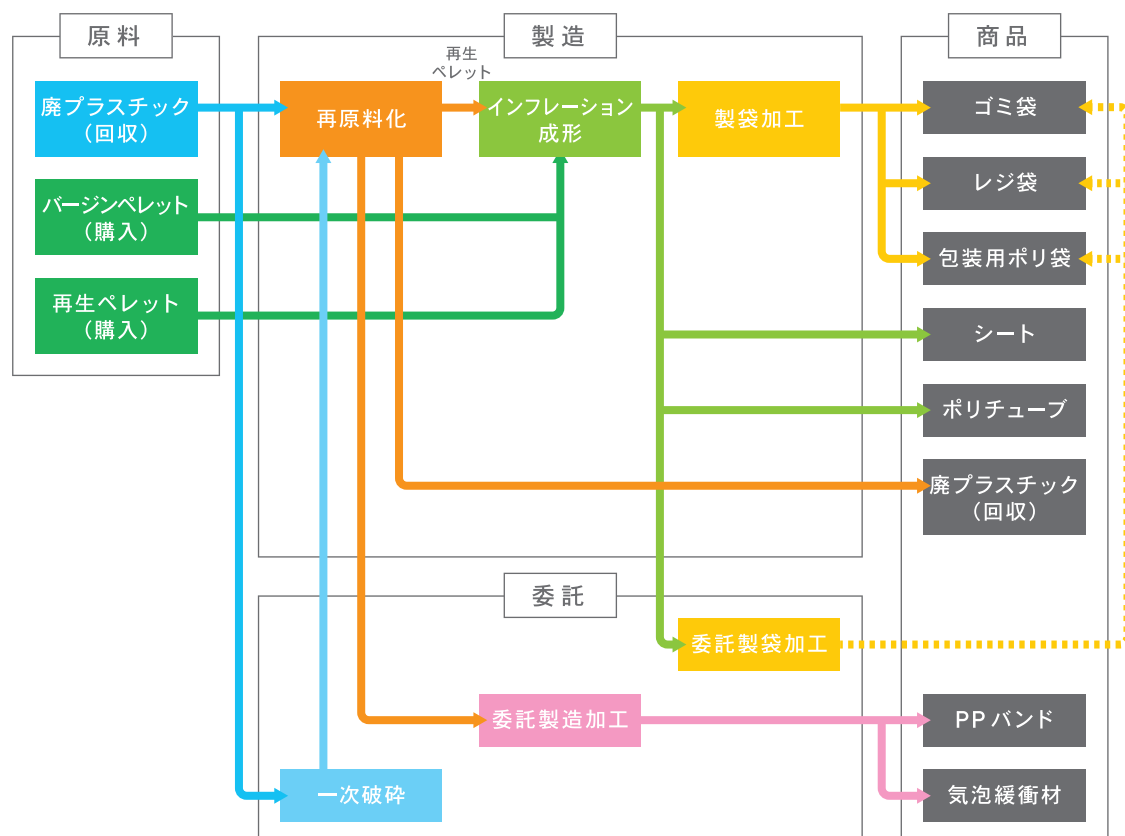
中間処理業 中間処理業の業としての実績はありません。

※回収したプラスチックは、すべて有価としてリサイクルしています。

中間処理に係る情報

処理施設の種類の	破砕施設
処理する産業廃棄物の種類	廃プラスチック(ポリエチレン)
処理能力	2.39t/日(8時間)
処理方法	(横型)一軸式

フロー図(処理工程図)





Recycle in Japan

IWAIKASEI Co., Ltd.

株式会社 岩井化成

〒306-0605 茨城県坂東市馬立南の台 1263-2

Tel. 0297-35-1879

info@iwaikasei.co.jp

www.iwaikasei.co.jp